

インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究プロジェクト・方法論チーム (MeSTra) 研究会

MeStra Methodological Studies
for Translational Research

レジリエンスの構築: 災害復興におけるソーシャル・キャピタル

報告者：ダニエル・P・アルドリッチ
(パデュー大学・准教授)

コメント：(検討中)

司会：松田亮三 (人間科学研究所)

日時: 2013年12月10日(火) 午後3時から4時45分まで

場所：学而館第2研究会

参加対象：どなたでもご参加できます。資料準備の都合上、12月5日(木)の正午までに、MESTRA.TRANSIS@GMAIL.COM までにご連絡いただきますようお願いいたします。

Daniel P. Aldrich (ダニエル・P・アルドリッチ) 氏は気鋭の政治学者で(詳細は、<http://web.ics.purdue.edu/~daldrich/>にてご自身の説明があります) 原発、空港、ダムなど、いわゆる「迷惑施設」において国家機関が市民社会とどう関わるかを分析し、コーネル大学出版局から公刊された『誰が負を引きうけるのか—原発・ダム・空港立地をめぐる紛争と市民社会』は邦訳も出版されています。

近年では、災害復興において近隣・地域コミュニティの果たす役割を検討され、昨年シカゴ大学出版局より "Building Resilience: Social Capital in Post-Disaster Recovery" を出版されました。同書は、災害からの復興に関わるソーシャル・キャピタルの役割を検討したものであり、我が国が直面している課題との関連とも深く、本研究所の取り組みとも示唆的です。研究会では、新著の内容とともに、氏の研究の実践場面への応用についても言及いただきます。

主催：立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究」(方法論チーム)

問い合わせ先：MESTRA.TRANSIS@GMAIL.COM